



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年7月24日

上場会社名 綿半ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3199 URL https://watahan.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野原 勇
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 伴野 紋子 TEL 03-3341-2766
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日~2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	32,416	1.9	683	△17.4	813	△5.5	645	4.7
2025年3月期第1四半期	31,826	6.9	826	243.2	860	119.4	616	169.9

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 694百万円(31.1%) 2025年3月期第1四半期 530百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	33.34	—
2025年3月期第1四半期	30.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第1四半期	78,264	23,374	29.9	1,207.44
2025年3月期	79,434	23,240	29.3	1,200.54

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 23,374百万円 2025年3月期 23,240百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	29.00	29.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	67,720	3.8	1,762	0.4	1,803	1.1	1,150	△7.3	59.41
通期	139,000	4.0	3,840	9.7	4,000	4.9	2,300	10.7	118.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期1Q	19,958,940株	2025年3月期	19,958,940株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年3月期1Q	600,335株	2025年3月期	600,335株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年3月期1Q	19,358,605株	2025年3月期1Q	19,930,867株
------------	-------------	------------	-------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善等により、緩やかな回復傾向にあります。その一方で、米国の通商政策や欧州の政策金利下げといった金融政策の影響、中東情勢の悪化等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

綿半グループが関係する事業環境のうち、小売事業では物価上昇による節約志向は依然として根強いものの、わずかながら持ち直しの動きがみられました。しかしながら、物流費等各種コストの上昇や業種を超えた販売競争は継続している状況にあります。

建設事業では、建設需要は底堅く推移し、受注環境は総じて良好に推移しましたが、住宅市場においては新築住宅着工件数は減少傾向にあり、建設業界全体で人件費の上昇や人手不足による納期の遅れが懸念されるなど、依然として厳しい事業環境が続いております。

貿易事業では、化粧品市場における各種製品の需要が見込まれる一方、医薬品市場は、毎年の薬価改定による抑制リスクが見込まれるといった、引続き先行き不透明な事業環境となっております。

このような状況下におきまして、経営理念である「合才の精神」に基づき、人々の暮らしに寄り添う企業を目指すべく、経営方針として「地域に寄り添い地域と共に新しい価値を創造する」を掲げ、時代の流れに適合した事業ポートフォリオの構築に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は324億16百万円(前年同四半期比1.9%増)、営業利益は6億83百万円(同17.4%減)、経常利益は8億13百万円(同5.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益については6億45百万円(同4.7%増)となり、業績は概ね計画通り進捗しております。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(小売事業)

小売事業では、スーパーセンター、ホームセンター、食品スーパー、ドラッグストア、インターネット通販など、多様な業態を展開しております。

4月には綿半スーパーセンター千曲店(長野県千曲市)がリニューアルし、「わくわく感」と「ライブ感」をテーマに、オープンキッチンの導入や揚げたてフライの提供、焼き立てパンが楽しめるベーカリーの新設など、グルメコーナーの売場を大幅に強化いたしました。綿半ホームエイド穂高店(長野県安曇野市)もリニューアルオープンし、近隣ホームセンターとの差別化を図り、地域の工務店・職人層のプロ向けに資材等を拡充した売場へリニューアルいたしました。そのほか、無人販売サービス「EasyShop」の設置が100店舗を突破するなど、利便性の高い置き販売サービスの展開にも注力しております。

商品展開の面では、綿半ファームで育てた黒毛和牛「SHINルビー牛」が前年同期比129%と好調に推移したほか、新たに建設を進めていた綿半ファームのスマート技術と循環型モデルを採用した次世代養豚施設(長野県筑北村)が完成し、より安定した安心・安全な豚肉供給体制が整いました。

また、綿半魚類一宮漁港平島店(愛知県一宮市)では1周年を記念して、100kg超の本まぐろを使用した解体ショーを開催するなど、話題性のあるイベントを実施しております。加えて、保護犬・保護猫の譲渡会を綿半店舗で継続的に行うなど、地域に根ざした取組みも引続き展開しております。

当第1四半期連結累計期間における業績は、前期に引き続きECサイトの売上伸長と物流コストを削減したこと等により、売上高は198億68百万円(同0.9%増)、セグメント利益は6億5百万円(同6.7%増)となりました。

(建設事業)

建設事業では、木造建築、鐵構、屋根外装改修、自走式立体駐車場等を展開しており、長野県を基軸にグループシナジーを活かした事業展開を行い、企業価値向上に取り組んでまいりました。

屋根外装改修等リニューアル工事分野では、重点施策としてプロモーション展開から課題を掘起こし、環境に配慮した新商品・新工法・新サービスの開発を推進しております。

鐵構分野では、増加する鉄骨需要と大型案件への対応策として、ミャンマー、中国（大連）、ベトナムにCADセンターを設置し、教育プログラムによる人材育成とDXによる設計プロセスの最適化により、海外拠点での設計支援力の強化と生産性向上を進めております。

また、「住めば住むほど健康な家」づくりを目指し、長野県域で住宅販売・施工を本格始動いたしました。4月には「来て、見て、さわって、ねころんで」を体感できるモデルハウス（長野県松本市）をオープンいたしました。新たなマスコットキャラクター「わたりん」おすすめの、住む人の健康を何より大切に考えた住宅をぜひ体験してみてください。

そのほか、4月に木質バイオマス発電事業を行うソヤノウッドパワーから事業を継承し、綿半ウッドパワー（長野県塩尻市）が本格始動いたしました。製材工場などの製造過程から出る端材や山に残された未利用材を燃料として発電することで、信州の豊かな森林を無駄なく活用し、地球環境の維持、発展に貢献してまいります。

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は100億円(同2.4%減)、セグメント利益は86百万円(同71.2%減)となり、リニューアル工事が大きく伸長していた前第1四半期対比では減収減益となりましたが、足元の受注及び売上の状況は順調であり、計画通りに進捗しております。

(貿易事業)

貿易事業では、世界20カ国以上から天然由来の医薬品・化粧品・食品原料の輸入販売、不妊治療薬の原薬製造等を行っており、さらに食品や肥料・飼料分野への展開、研究開発活動にも積極的に取り組んでまいりました。

食品分野では、資本業務提携先の株式会社カサナチュラルと共同で、褐変しない冷凍アボカド『Natavo』の販売拡大の推進や、板ガムの原料になるチクルの新たな輸入ルートを確立し、安定供給体制の構築と市場拡大に向けて継続的に取り組んでおります。また、メキシコから輸入している、天然赤色素を含み、綺麗な赤色やピンク色の色味を出すことができるウチワサボテン果実のパウダーを販売するなど、オリジナル商品の研究開発を行い、海外ネットワークを活かした食品の輸入販売に注力いたしました。さらに、野菜としてもウチワサボテンを普及させるために、サボテン×ベジタブル『サボベジ』として店舗での販売を開始いたしました。

研究開発推進のため、食品分野のほか、不妊治療薬の原薬製造の安定化・高品質化に向けた精製率を高める研究開発に注力しております。

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は15億62百万円(同6.7%減)、セグメント利益は1億25百万円(同26.5%減)となり、納入時期の違いにより前第1四半期対比では減収減益となりましたが、業績は計画に対して順調に推移しております。

(その他)

「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。不動産の販売があったこと等により、売上高は9億84百万円(同359.1%増)、セグメント利益は98百万円(同400.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、11億69百万円減少し、782億64百万円(前期末比1.5%減)となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ8億53百万円減少し、424億58百万円(同2.0%減)となりました。主な要因は、現金及び預金が9億12百万円、原材料及び貯蔵品が2億33百万円、仕掛品が1億9百万円増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が12億74百万円、電子記録債権が7億95百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ3億15百万円減少し、358億6百万円(同0.9%減)となりました。主な要因は、有形固定資産が2億57百万円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末に比べ13億3百万円減少し、548億90百万円(同2.3%減)となりました。主な要因は、短期借入金が増加した一方、未払法人税等が10億1百万円、支払手形及び買掛金が9億17百万円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ1億33百万円増加し、233億74百万円(同0.6%増)となりました。主な要因は、剰余金の配当により5億61百万円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益により6億45百万円増加したこと等によるものであります。

これらの結果、自己資本比率は29.9%(前連結会計年度末は29.3%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。なお、2025年5月12日の「2025年3月期 決算短信」で公表しました第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,964	4,876
受取手形、売掛金及び契約資産	12,930	11,656
電子記録債権	3,588	2,793
商品及び製品	15,843	15,065
仕掛品	1,028	1,138
原材料及び貯蔵品	3,722	3,955
その他	2,260	2,998
貸倒引当金	△24	△25
流動資産合計	43,312	42,458
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,737	14,526
土地	10,986	10,995
その他（純額）	2,485	2,430
有形固定資産合計	28,210	27,952
無形固定資産		
のれん	568	499
その他	541	525
無形固定資産合計	1,110	1,024
投資その他の資産		
その他	6,994	7,021
貸倒引当金	△192	△192
投資その他の資産合計	6,801	6,829
固定資産合計	36,122	35,806
資産合計	79,434	78,264

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,475	8,558
電子記録債務	6,416	6,582
短期借入金	10,481	11,527
未払法人税等	1,191	190
賞与引当金	879	1,094
工事損失引当金	123	78
完成工事補償引当金	41	42
その他	5,637	5,848
流動負債合計	34,246	33,922
固定負債		
長期借入金	15,989	15,267
退職給付に係る負債	2,461	2,478
資産除去債務	2,257	2,256
その他	1,238	965
固定負債合計	21,946	20,968
負債合計	56,193	54,890
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,101	1,101
資本剰余金	706	706
利益剰余金	21,574	21,658
自己株式	△978	△978
株主資本合計	22,403	22,487
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	697	751
繰延ヘッジ損益	0	0
退職給付に係る調整累計額	138	135
その他の包括利益累計額合計	836	886
純資産合計	23,240	23,374
負債純資産合計	79,434	78,264

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	31,826	32,416
売上原価	24,400	25,733
売上総利益	7,426	6,682
販売費及び一般管理費	6,599	5,999
営業利益	826	683
営業外収益		
受取利息	2	6
受取配当金	17	26
受取補償金	14	14
出資金運用益	5	64
その他	54	82
営業外収益合計	93	194
営業外費用		
支払利息	19	42
その他	40	21
営業外費用合計	60	64
経常利益	860	813
特別利益		
固定資産売却益	5	1
負ののれん発生益	51	—
特別利益合計	56	1
特別損失		
固定資産除売却損	16	6
特別損失合計	16	6
税金等調整前四半期純利益	900	808
法人税、住民税及び事業税	374	169
法人税等調整額	△90	△6
法人税等合計	284	163
四半期純利益	616	645
親会社株主に帰属する四半期純利益	616	645

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	616	645
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△71	53
繰延ヘッジ損益	△13	△0
退職給付に係る調整額	△0	△3
その他の包括利益合計	△86	49
四半期包括利益	530	694
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	530	694

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	455百万円	435百万円
のれんの償却額	70	69

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	19,662	10,220	1,674	31,557	62	31,620
その他の収益	31	22	—	54	151	206
外部顧客への売上高	19,694	10,242	1,674	31,612	214	31,826
セグメント間の内部売上高又は振替高	47	0	1	49	41	91
計	19,742	10,243	1,676	31,661	256	31,918
セグメント利益又は損失(△)	567	300	170	1,039	19	1,058

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,039
「その他」の区分の利益	19
セグメント間取引消去	3
全社費用(注)	△235
四半期連結損益計算書の営業利益	826

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	19,833	9,990	1,562	31,387	825	32,212
その他の収益	35	9	—	44	159	204
外部顧客への売上高	19,868	10,000	1,562	31,432	984	32,416
セグメント間の内部 売上高又は振替高	61	14	2	78	40	119
計	19,930	10,014	1,565	31,510	1,025	32,536
セグメント利益	605	86	125	817	98	916

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	817
「その他」の区分の利益	98
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	△235
四半期連結損益計算書の営業利益	683

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。